



令和6年度 第7回共同機構研修会

令和6年10月11日(金)

LDの可能性のある子どもの困りと就学前の関わり

講師 竹内 吉和 竹内発達支援 Co.代表

特別支援教育は、平成19年の法律改正により始まりました。これにより従来の特殊教育対象の障がいだけでなく、発達障がいなどで通級による指導を行うとして通常学級に位置づけられた子どもも対象になりました。研究が進み、自閉症やADHDといった行動の問題や関わりの問題は、個性として受け入れて支援をしていく必要があることがわかってきました。一方で、認知の問題や、学力の問題については、教育や保育の中で手立てをしたり、関わりによって伸ばしたりすることができるのではないかと注目されるようになってきています。しかし、医師によって診断が出なかつたり、診断名が違つたりする現状があり、本当に発達障がいなのか迷うことがあります。これは、バイオマーカーの問題です。バイオマーカーとは生物学的なマーク、証拠のことで、多くの病気は、明確なバイオマーカーがありますが、発達障がいにはこれがありません。そのため、子どもの実態をつかみ、メリハリをつけて支援や指導していくことが大事だというのが今の考え方になってきています。

発達障がいには、自閉スペクトラム症(ASD)、限局性学習症(SLD)、注意欠如・多動症(ADHD)と大まかな3つの分類があります。私が注目しているのは、知的な遅れの境界領域あたりにいる子どもたちです。実は発達障がいの問題より、知的な境界領域にいることの方が、指導を難しくしているのではないかと私は思っています。発達障がいには、バイオマーカーの問題もあり、グレーゾーンの子どものも多いです。そんな子どもの実態をつかみ、それぞれに適した指導をしていくことが大事です。十把一絡げでは、ダメだということです。実態をつかむにあたり、読み書きの弱さの検査を行うことも一つです。この時、重要なのは、検査の結果からその子どもの強さと弱さを読み取ることです。アセスメントをして弱さを読み取ることができれば、努力して解決する問題でなく、適切な支援を入れていくことが大事だと分かり、具体的な支援も研究されているので、悩むことなく支援に取り組みます。また、学力の獲得の失敗は、青嵐クライシスや、中年クライシスを招くとされています。学びの土台は幼児期に作られるので、幼児期に安定して過ごすことが、クライシスの予防にもなります。そのため、早期発見・早期対応が重要です。発達障がいについては、5歳頃が分岐点となり、わかってくることが多いと言われています。SLDは認知の障がいで、言語認知や聴覚認知、視覚認知の障がいです。知的な遅れはないので、別の認知機能を使えば、カバーできる可能性があります。早期に発見し対応できれば、幼児期に積み上げた具体的支援や指導を小学校へ共有し、継続して支援・指導を積み上げていくことが重要です。

保育者や教師が子どもの困りに気づいたとしても、保護者と捉え方が違う可能性があります。気づいたことを直接的に保護者に投げかけてもうまく伝わらず、トラブルになることもあります。児童精神科医の清水先生が、「二八の療育」(子どもの療育については2で良い。重要なのは家族への支援の8である)と言っておられます。専門的な知識をもち、きちんと説明することで、保護者が理解し、納得する可能性もあります。専門的な知識があれば、親の子どもへの対応に助言等のフィードバックができますし、根拠を示して提案もできます。このようなやり取りを重ねながら、日頃からパートナーシップを築くことが大事です。パートナーシップを築くためには、日頃の観察を元に説明するというスタンスや相手を従わせようとせず寄り添うスタンスが大切です。伝え方も、全体の研修の場や個別で伝える場等、その家族に合った方法で行うことが大事です。子どもの困りの原因をしっかりと見極め、適切な支援をするためには、研修等で学び、新しい知識を得ることも重要なことです。

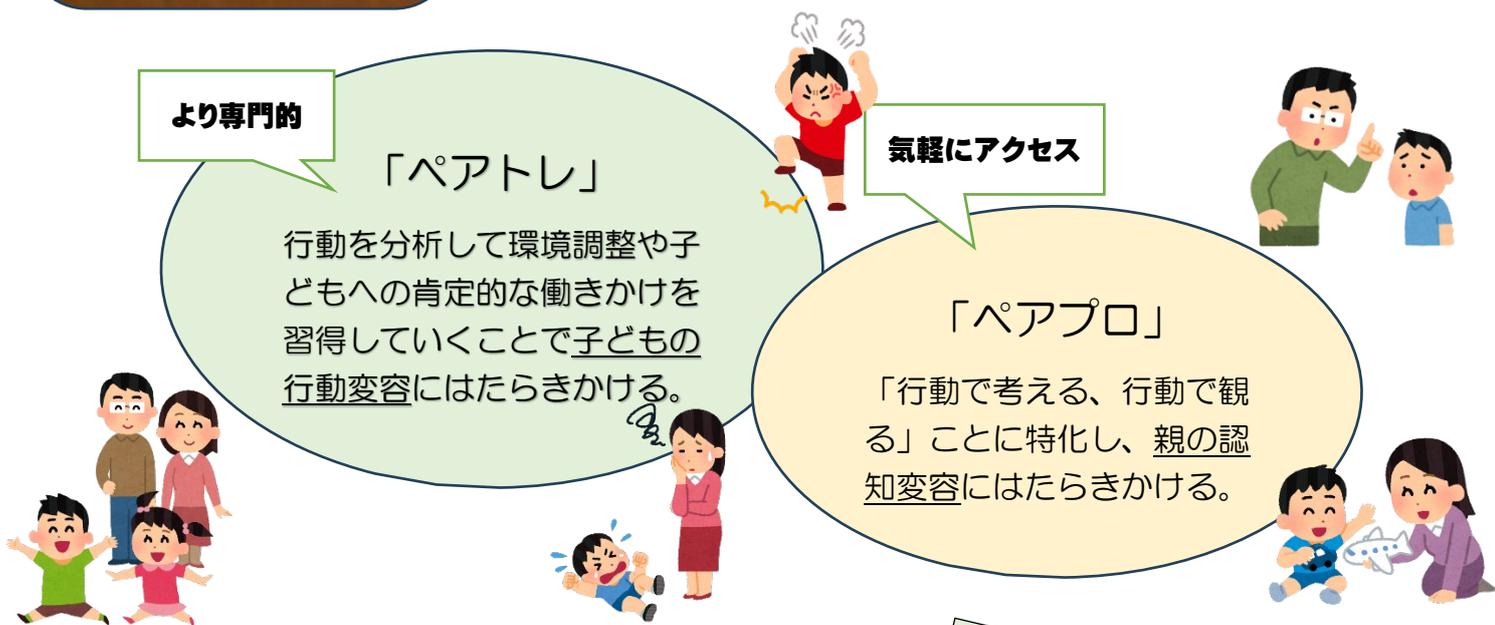
子育て支援に生かそう ペアトレ・ペアプロの考え方

～子育てサポートプログラム
『みんな😊はなまる』から学ぶ～

講師 馬淵 翠さん 京都市子ども家庭支援課



第8回共同機構研修会は、子ども家庭支援課心理支援担当の馬淵翠さんに、ペアレントトレーニング（ペアトレ）やペアレントプログラム（ペアプロ）についてのお話をうかがいました。また、京都市で作成し、現在子育て支援の場で実施されている子育てサポートプログラム「みんな😊はなまる」を体験したり、同じ区の子育て支援者同士でグループ交流をしたりしました。



「ペアプロ」の3つの要素

1. 「仲間」をつくる

《仲間関係を築きにくい保護者などを支援者がサポート》

2. 「行動」で考える

《「行動」で見るペアトレの前段階の基本プログラム》

3. 「ほめる」対応

《子どもに向けがちな否定的な視点（「困った子」）を、肯定的な視点（「ここまではできている」）に変える》



様々な悩みを持つ保護者に有効

地域でできる、地域でこそ生きる！

レッツ！チャレンジ！

子育て応援ワークブック『みんな はなまる』

『みんな  はなまる』は、京都市で平成28年に作成された、

- ①「ほめる」ことで、親子のコミュニケーションを促し、
 - ②子どもについて「行動で考え」、
 - ③保護者が「自分だけではない」と感じて仲間を見つける
- といった「ペアプロ」の要素と、伝え方や環境の工夫などを取り入れた子育て応援ワークブックです。



ワークは全部で
6章

1章 いいところをさがそう

2章 じっくり見てみよう！

3章 なんでもか考えよう！

4章 やる気を引きだそう！

5章 うまく伝えよう！

6章 過ごしやすい整えよう！



自分の短所をポジティブに言い換えてもらって嬉しかったです。



同じ地域の支援者とい
う話せて良かったです。

今回は、第1章「いいところを探そう」と第3章「なんでもか考えよう！」を体験しました。

このワークブックを活用することで、

- ・子どもの行動に対する捉え方を変える。
- ・子どもへの具体的な対応の仕方や望ましい関わり方を学ぶ。等の効果が期待できます。



リフレーミング

具体的に見る

行動分析

認める・ほめる

伝え方の工夫

環境を整える

アンケートより

- ・もう少し深く、子育てサポートプログラムについて学びたいと思いました。もっと時間がほしいと感じました。
- ・栄養士という立場での、保護者支援の研修はとても新鮮でした。食についての研修に参加することが多いのですが、保護者との関わりはあるので、子育てについて学びを深めたいと思いました。
- ・「ほめる」と、ほめる側にもメリットがあると知り、保護者にも伝えていきたいと思いました。心に余裕をもって、子どもや保護者の良いところをたくさん引き出していきたいです。また、短所と知っていることも、考え方で長所にかわるんだなとわかりました。
- ・保護者支援の具体的なプログラムだと思うので、現場で有効に使うことができると良いな、と感じました。グループ討議の時間や、ワークの時間があり、周りの方から意見を聞くことができたので、とても充実していました。
- ・グループ交流で、同じ区でグループにくださったので、情報交換できて良かったです。地域でつなげていこうという意図のグループ作りが嬉しかったです。

DVD貸出中



研修 DVD で学びませんか？

気軽に！

職場のみんなと！

いつでも！

一人で！

こどもみらい館では、過去 10 年間に開催した共同機構研修会の DVD を、研修参加施設の職員研修に限って貸し出しています。（講師の許可の取れた研修に限ります。）

どんな研修があるの？

どうやって借りるの？

**他にどんな DVD があるか、
利用方法等くわしくはホームページを御覧ください**

令和6年度の研修
DVD はこちら

これらの DVD は、『施設型給付費等に係る処遇改善加算 II に係る園内研修』にもご使用いただけます。

*** 2カ月前に京都府への申請が必要です。**

動画配信決定！
1/30～2/28

テーマ	講師名
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 私たちの保幼小連携・接続へ ～子どもの具体的・直接的体験をつなげよう～ 	古賀 松香さん 京都教育大学教授
<ul style="list-style-type: none"> ▶ LD の可能性のある子どもの困りと就学前の関わり 	竹内 吉和さん 竹内発達支援 Co.代表
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子育て支援に生かそう ペアトレ ペアプロの考え方 ～子育て支援サポートプログラム『みんなはなまる』から学ぶ 	馬淵 翠さん 京都市子ども家庭支援課心理支援係
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 乳幼児期の非認知の応力 	森口 佑介さん 京都大学大学院准教授

只今、準備中

締切が迫っています！

保幼小連携・接続アンケート御協力のお願い（締め切り12月10日）

こちらをクリックして
入力いただけます

昨年度に引き続き、研究事業の一環として『保幼小連携・接続のアンケート』を実施しています。

入力がまだの園（所）は、是非、御協力いただきますよう、お願いいたします。



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。



[京都はぐくみ憲章]より

この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和6年12月2日
 発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
 〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
 Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
 URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>